授業科目	解剖学					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	岡部　明仁						
授業概要	将来養護教諭として、学校における医療系教員として従事する上で、正常な生命活動の仕組みについての理解が欠かせません。本科目では、人体の基本的構造と、その恒常性を維持するための仕組みについての概略を学習します。特に、目的に合わせて、さまざまな形態・機能を備えるべく分化した細胞や器官と、それらが営む生命活動の不思議さについての感動を共有出来るような授業を目指したいと考えています。						
授業形態	講義				授業方法		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．骨と筋肉、運動や感覚に関わる神経系、血液細胞の働き、免疫の仕組みについての基本的な用語について説明できる。(DP1-1) 2．泌尿器系の基本となるネフロンの概略図を描き、各部の名称を書き込むことができる。(DP1-1) 3．血液循環の仕組み、肺におけるガス交換、血圧と血圧調整の仕組みについての基本的用語について説明できる。(DP1-1) 4．運動神経や感覚神経および自律神経系について構造と機能を説明できる。(DP1-1)
理想的レベル	標準的レベルをすべて達成したうえで、 1．骨と筋肉、中枢神経と末梢神経の役割、血液細胞の働き、免疫の仕組みについて概要を理解し説明することができる。 2．泌尿器の構造とはたらき、血液の産生と組成、血液循環の仕組み、肺の構造とガス交換、心臓の構造と血圧及び血圧調整の仕組みについての記述の正誤を判断できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	100%	
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21505J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
教科書による予習と復習	4

授業計画

第 1 回	解剖学を学ぶための基礎知識 1 ー人体の素材としての細胞・組織ー
第 2 回	解剖学を学ぶための基礎知識 2

	ー構造と機能から見た人体ー
第 3 回	身体の支持と運動 1 ー骨格と骨格筋、運動神経系ー
第 4 回	身体の支持と運動 2 ー上肢・下肢の骨格と筋ー
第 5 回	身体の支持と運動 3 ー頭頸部の骨格と筋と感覚器ー
第 6 回	身体の支持と運動 4 ー筋の収縮ー
第 7 回	呼吸と血液の働き 1 ー呼吸器の構造ー
第 8 回	呼吸と血液の働き 2 ー呼吸器の機能ー
第 9 回	呼吸と血液の働き 3 ー血液ー
第 10 回	血液の循環とその調節 1 ー心臓の構造と機能、自律神経系ー
第 11 回	血液の循環とその調節 2 ー末梢循環系の構造ー
第 12 回	血液の循環とその調節 3 ー血液の循環調節、リンパとリンパ管ー
第 13 回	体液の調節と尿の生成 1 ー腎臓の構造と機能ー
第 14 回	体液の調節と尿の生成 2 ー排尿路と反射経路についてー
第 15 回	体液の調節と尿の生成 3 ー体液の調節とホルモン分泌ー
テキスト	坂井建雄他　系統看護学講座専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能１　（医学書院）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	坂井建雄他監訳　「プロメテウス　解剖学アトラス」（医学書院） 小澤瀞司他監修　「標準生理学」（医学書院） 藤田恒夫他著　「標準組織学　総論」「標準組織学　各論」（医学書院） 坂井建雄他訳　「カラーアトラス　顕微鏡写真で見る細胞組織学」（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 小学館の図巻 NEO　「人間　いのちの歴史」（小学館）
課題に対するフィードバックの方法	課題内容は授業の中で指示します。
学生へのメッセー	特になし ・後期に開講される「生理学」も履修することが望ましいです。

ジ・コメント	・講義では配布資料を配ります。配布資料は教科書の図の説明です。配布資料を忘れても教科書に書き込めばカバーできるようになっています。 ・講義や実習内容の中で興味を持った事柄について、まずは教科書をよく読み、キーワードの周辺にそれを理解する説明があるかどうかを探してください。その他、参考書を読んだり、インターネットで調べたりといった「自学自習」の習慣を身につけてください。 ・インターネットを使って検索するというのは重要なスキルではありますが、最初から検索しないよう心掛けてください。